

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103338		
法人名	有限会社 すみれの里		
事業所名	グループホーム すみれの里		
所在地	長崎市富士見町15番5号		
自己評価作成日	平成25年12月4日	評価結果市町村受理日	平成26年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】 2ヶ月毎、併設の小規模多機能ホームと合同で規程のメン

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成26年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

女性ばかりの6人のグループホームです。利用者も職員も少人数である事の利点を活かし、馴染みの関係を作りやすく、家庭的な雰囲気を大切にしています。約3年間、利用者の入れ替わりがない、このことは、日頃の健康管理、利用者の状態観察ができていないこと、医療機関との連携が上手くできていない結果だと考える。小規模多機能の事業所が併設されており、外出、行事など一緒に行っています。毎日の生活の中でも散歩、お菓子作りなど交流があり、グループホームの6人だけでなく他の方との交流を図り、いい意味での刺激が有ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街に位置し、同じ建物の1階には系列の小規模多機能ホームがある。そのため、外出や行事を合同で行ったり、通いの場に遊びに行くなど交流している。職員は利用者の健康に配慮し、ストレスを感じさせない支援に努めており、ここ3年は利用者の入れ替わりが無く、元気に過ごしている。協力医と医療連携が整い、夜間時に対応が可能になり本人・家族の安心に繋がっている。地域の夏祭りに地域交流券を提供したり、近隣の住宅のポストに災害訓練の協力依頼を入れたところ協力を得ることができており、地域との連携が構築し始めている。また、虐待防止委員会の継続により、専門家の講義を受けることで職員の質の向上に繋がっている。理念である「地域の優しさに包まれながら、いつも笑顔で生き生きと自分らしく暮らし続けることを支援します」の具現化に日々努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホーム すみれの里
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りで唱和し、理念に従って職務を行うように努力している。新人職員にも理念について理解してもらい、同じ方向性を持って仕事をしていけるように心掛けている。	事業所の理念「笑顔でいきいき自分らしく」は職員が毎朝唱和し、新人には教育時に説明し共有している。理念の「笑顔」は職員が笑顔にならないと利用者に伝わらないと、職員自らが笑顔で支援し、利用者の性格など共有しながら、その人らしい暮らしの支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「地域の中で」を柱に、自治会に加入しており、高齢者対象の昼食会やゲーム大会に参加している。毎日の生活の中で近隣の公園まで散歩に出かけ、地域の方々と挨拶をしたり、声を掛けて頂いたりしている。	自治会の特別会員として加入している。年3回、自治会と包括支援センター主催の高齢者昼食会への参加、自治会の夏祭りに協賛し地域交流券の提供など行っている。また、地域のボランティアによる演奏の受入れなど、地域との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設時に自治会の役員会や民生委員の会議等に参加して話をした。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、実会長、民生委員、地域包括センター長等の方々に参加いただきサービスの向上に生かしている。	2ヶ月毎、併設の小規模多機能ホームと合同で規程のメンバー参加にて開催している。会議には自治会長や成年後見人の参加がある。自治会長から運営推進会議報告書の書き方の指導があったり、その立場の専門家との意見交換を行っている。会議の報告書は家族にも渡している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所における問題、質問等を御相談させていただき、入居者の」より良い生活を支援出来るように連携を図っている。	事業所の報告や相談、手続きなどで連絡を取っている。又、長崎市のボランティア受入れ施設の認定を受け、市の紹介で毎週1回のボランティアの訪問がある。また、年に1回介護相談員2名の受入れや行政主催の研修に参加するなど連携に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県主催の身体拘束廃止推進員養成研修に参加し、身体拘束をしないケアを職員に理解してもらい、身体拘束を行わないようにしている。	管理者は身体拘束廃止推進員養成研修を受け、身体拘束のない支援について職員に指導している。又、内部の虐待防止委員会会議には全職員が参加しており、身体拘束を理解し、言葉の拘束を含め拘束のない支援に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会(職員全員参加)を開催し、日頃の取り組み等を報告して、ミニ勉強会等行い虐待の防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講師による、勉強会を実施し、後見人制度等について勉強している。また、成年後見人制度を利用している入居者が折られるため、理解し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用契約書、重要事項説明書等の内容を十分に説明し、御理解頂ける様に努力している。不安や疑問点も常にお答えするように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しており、面会時にはお話を伺う様にしている。ご意見はケースカンファレンス」、運営推進会議等に反映させ十分に意向に沿えるようにしている。	苦情受付窓口は契約時に説明している。月1回の訪問時に面会して利用者の変化等を伝え、話を聞く機会を作っている。成年後見人の面談時にも話している。また、毎月の手紙や運営推進会議の報告書を発送し、事業所や利用者の様子を伝えるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミニカンファレンス、毎月の全員参加のミーティングなどで意見を出せるような環境を作っている。	職員は要望などを月1回の職員ミーティングや毎日のミニカンファレンス時に話している。また、不定期ではあるが管理者との面談もある。資格取得希望の職員には希望の休みなどシフト編成にて優先したり、支援に必要な備品の購入なども反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日のミニカンファレンス、毎月の全員参加のミーティングなどで意見を出せるような環境を作り、勤務上の問題点の有無等意見を聞き話し合いながら調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修は毎月1回外部講師により行っている。また、月初に行うミーティングの際、職員が講師になり勉強会を行っている。また、事業所外研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者の意向で、グループホーム連絡協議会を退会したため、同業者との交流する機会が少なくなっている。しかし、外部勉強会への積極的な参加、内部勉強会の充実を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、本人と十分に話をし、情報を得て、寄り添い、職員間で情報を交換共有して、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話をする機会を多く作るように心がけ、電話等も利用して素早い対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点ですぐに職員、家族と話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を人生の先輩とする尊敬の気持ちを職員全員で共有しており、入居者より日々多くのことを学んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報交換を行い、事業所での生活状況を把握して頂く様に心掛けている。ご家族の思いを大切に、より良いサービスができる様に、陽関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの物を持ってきていただき、御部屋に置いたり、ご家族や友人の面会、手紙、電話、贈り物など本人の要望に応じて対応している。	日頃は家族が衣類などを持って訪問している。職員は家族から昔の生活の情報を得たり、本人から得た生活歴はフェイスシートに記入し支援に役立てている。元の職場の人や同級生とその娘が訪ねて来るなど馴染みの人との関係が続いている利用者もいる。職員は関係が継続するよう連絡先などを聞き取っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	助け合ったり、支え合う場面が見られることもある。また、トラブルが起きないように見守り、良い関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても御見舞いに行ったり関係性は大切にしているが、約3年入居者の退所がない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を素早く察知し、検討している。表現が困難な場合には、家族の話、生活暦、日々の生活の中から思いや希望を汲み取るように努めている。	意思疎通が困難な場合は家族に尋ねている。一日の中でおやつの時間や食後などは職員と利用者が一対一になれる場面があり、話を聞いている。利用者のサインを見逃さず、察して支援しており、成功した事例を職員間で共有し次に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、友人などから情報収集を行い、その人らしい生活ができる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り、個人記録、ミニカンファなどで職員間の情報交換を密にして、入居者の変化や状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営推進会議や面会時にご家族からご意見をいただき、それを介護計画に反映させている。	日々のミニカンファレンスや夜勤者の申し送りを記録して、利用者の変化を把握している。家族の希望は訪問時に聞き取り、本人の意向と併せて計画に反映している。遠方の家族や後見人には手紙を書いている。急変時や退院後は計画を見直している。ただし、計画が実施できているかどうか日々の記録ではわかりにくい。	計画と実践の記録の連動がわかりやすいよう工夫が求められる。また、ケアマネジャーが作成した支援計画を職員が熟知し、支援に反映する仕組みづくりを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、毎日のミニカンファレンスなどで情報を共有して支援し、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩、ドライブ、外食、ホーム内でのレクや御手伝い等、入居者ひとりひとりの状況に応じた支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しているため、自治会主催の高齢者の為の屋食会やゲーム大会に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週連携医療機関より、往診を受けており、急変時にも対応していただいている。また、病状に応じて他科への受診は事業所で御連れしている。	主治医は利用者家族の意向に沿って決めている。協力医は往診専門であり毎週1回、歯科医は2週間に1回の往診がある。往診以外の受診は職員が同行し、受診結果は家族へ報告し、職員間は通院記録にて共有している。又、協力医には入院設備があり、夜間の緊急時に看護師の派遣体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師の訪問が週に1度有り、入居者の情報や気づきを伝え、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師や看護師と退院後の注意点等をうかがい、退院後の生活の支援に生かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の方針についての指針は作成しており、家族へは入居時に同意を得ている。スタッフ全員が団結し、話し合い、医師、訪問看護と連携を取り、家族へも協力をして頂きながら取り組んでいる。	看取りを行う方針で重度化や看取りの指針があり、契約時に家族へ説明し同意書を貰っている。状況の変化に合わせ家族や医師とその都度確認し、又、訪問看護と契約しており、体制を整え支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や勉強会に参加して、それをミーティングのとき職員に伝えたり、消防訓練時に年2回は消防署員から緊急時の対応等を教えていただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	H25年9月より毎月消防避難訓練を行っている。防火管理者の研修を受けている職員がおり、消防計画書を作成している。消防訓練時には、自治会長、民生委員、近隣の方に協力を頂いている。	訓練は年1回の消防署立会いと毎月の自主訓練を行い、利用者や自治会長、近隣の住民が参加している。スプリンクラーなどの消防設備を整備しており、チェックシートを用いて火災を起こさないよう注意している。ただし、夜勤専門の全職員の訓練参加が出来ておらず、又、災害時の緊急持ち出し品の整備はこれからである。	全ての職員が自信を持って避難誘導できるよう、夜勤専門の職員が訓練に参加できるよう工夫することが望まれる。又、緊急持ち出し品を整備する事を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を人生の先輩とする尊敬の気持ちを職員全員で共有している。トイレ、入浴等の誘導時の声のかけ方には十分に配慮し、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	職員は利用者の気持ちを汲む声かけを行っており、否定や注意をしない支援に努めている。職員は守秘義務の誓約書を提出しており、利用者の個人情報 の保管場所は適切である。ただし、トイレのドアが閉まらない箇所があり、利用者名を記載したパッド類が目につく場所にある。	利用者のプライバシーと尊厳を守り、羞恥心に配慮した支援となる為に、トイレのドアの修理やパッド類の保管について検討する事が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で入居者の思いを言動、行動から理解する事を心がけ代弁者となれるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の御希望に添い、体調、様子を見ながら、入居者のペースで過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、化粧水をつけたり、髪をとかししたりしている。また、外出、行事等のとき御化粧をして差し上げたり、マニキュアをぬって、気分転換をしたりしている。月1回、美容室の方が来て、カットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえやテーブル拭きなど、それぞれできる事を見つけて、御手伝いをして頂いている。サンドイッチやどら焼き等おやつを職員と一緒に作る事もある。	利用者の嗜好を把握し、キザミやおかゆなど利用者が自身で食事することができるよう支援している。母の日にはにぎり寿司、クリスマスはサンドウィッチなどの提供もある。また、食事中エプロンではなく、バンダナで食べこぼしに対処しており、利用者の尊厳を守った楽しい食事の場面となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録に残している。医師や訪問看護師の往診時に報告し、指示を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の食後の口腔ケアは欠かさず行っている。2週間に1回、歯科医師に往診していただき、口腔ケアの支持を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけオムツの使用を減らしていくように支援している。体調、精神状態、排泄パターンを把握して徐々に進めていく。	排泄は記録しており、定時の声掛けや利用者の様子を見て、トイレへ誘導している。利用者の介護度が重くなっており、改善はないが職員は利用者が現状を維持できるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日誌等により職員は個々の排泄状況を把握しており、医師、看護師の指示により改善、予防に努めている。水分補給、食事にも気を配り、毎日ヨーグルト、果物などを摂るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴の中で、その日の気分や体調を大切に、拒否されるような時は、入浴日を限定しないで行き、足湯も行っている。入浴日以外は清拭を行い、季節により、菖蒲湯、ゆず湯も楽しんでいる。	週3回午後から入浴している。拒否の場合は時間を置いて声掛けしており、無理強いはいしない。脱衣時が寒くないように暖房器具を利用している。車椅子利用者は足浴とシャワーで対応している。入浴剤を入れるなど楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、照明、音など環境整備に努め、睡眠パターンを把握して、個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が服用している薬について理解しており、病状や薬の変化は、その都度、受診記録に記録し、職員全員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	折り紙、塗り絵、ドライブ、歌、フラワーアレンジメントやおやつ作りなど入居者の希望に合わせて、楽しみや気分転換の支援を行っている。金魚を飼っており、えさをやったり、話しかけたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は入居者の希望と体調に配慮しながら散歩に出かけている。御花見など季節の行事や宮日などの郷土の行事には出掛け、時にはホテルへケーキを食べに行き楽しんでいる。	季節のいい時期は、職員が車椅子を押して、歩ける利用者と一緒に近くの公園まで散歩している。また1階の小規模多機能ホームと一緒にドライブに出掛けたり、季節の祭りや花見にも全員で出掛けている。温泉付きの施設でケーキを食べるのも利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は一括して行っているが、外出したときなどに、職員と一緒に買い物する事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御希望があれば電話を掛ける御手伝いを行なう。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に普通の生活を心がけ、室温調節や換気に機を配っている。雛人形等、季節に応じた物を飾り季節を感じて頂く様にしている。	リビングには季節感がある行事の飾り付けがあり、殺菌作用のある加湿器を設置している。金魚の水槽は餌をやるなど利用者の楽しみとなっている。また、ソファやテーブルセット、壁掛けのテレビがあり、利用者は思い思いに寛いでいる。気になる匂いは無く、職員が朝、夕2回ハイターで手すりなど掃除していて快適である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間を囲んで、居室が有り、ソファで一緒にくつろいだり、思い思いに過せるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前に使用していた馴染みの物、愛用品は持ち込んでいただいて、居心地良く暮らして頂ける様に工夫している。	居室には筆筒や位牌、写真など利用者の馴染みの物があり、ベッドや床にマットレスを置くなど利用者の状態や意向に沿って支援している。又、各居室には作りつけの棚や手すりがあり、整理整頓しやすい空間となっている。掃除や換気は職員が行っており、清潔で寛げる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、手すりを利用して、声掛、見守りをしながら、自立した生活が送れる様にしている。		